

GOQBUTO-RⅢ

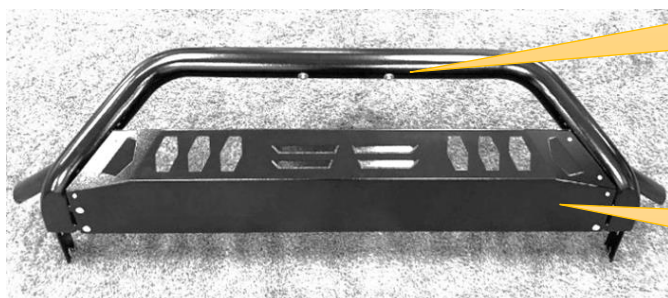
デリカ D:5 2019年式以降 ディーゼル車 標準ボディ専用

取り付け時のご注意

- 各部のネジは、都度で締め込むのではなく、ゆるく仮締めをおこなって、最後に全体のバランスを合わせながら本締めをおこなってください。
- ボルトナットは、ステンレス製を使用しております。ステンレスボルトの特徴として、電動機などで締め付けると、ねじのはめ合い部で発生する摩擦による熱や、締め込みすぎ(オーバートルク)による熱によってネジ部が膨張し、雄ねじと雌ねじが密着して動かなくなる、**ステンレスのかじり(焼き付け)**が起きます。ご注意ください。
- **シルバースキッドプレートはアルマイト仕上げとなっておりますが、広い面積をアルマイト処理すると、プレート表面に色ムラがどうしても発生します。また、水滴の跡が白く変色する事があります。使用過程で徐々に分かりにくくなりますが、なくなってしまうものではありません。予めご了承くださいませよう、お願いします。**
- 車検の適合については、当社ホームページの商品ページの中で、詳しく解説しておりますので、そちらを参照ください。

構成部品の確認

GOQBUTO-RⅢ本体/スキッドプレート



【GOQBUTO-RⅢ本体】

- ・テクスチャブラック
- ・M6 ボルト/ワッシャー(大)

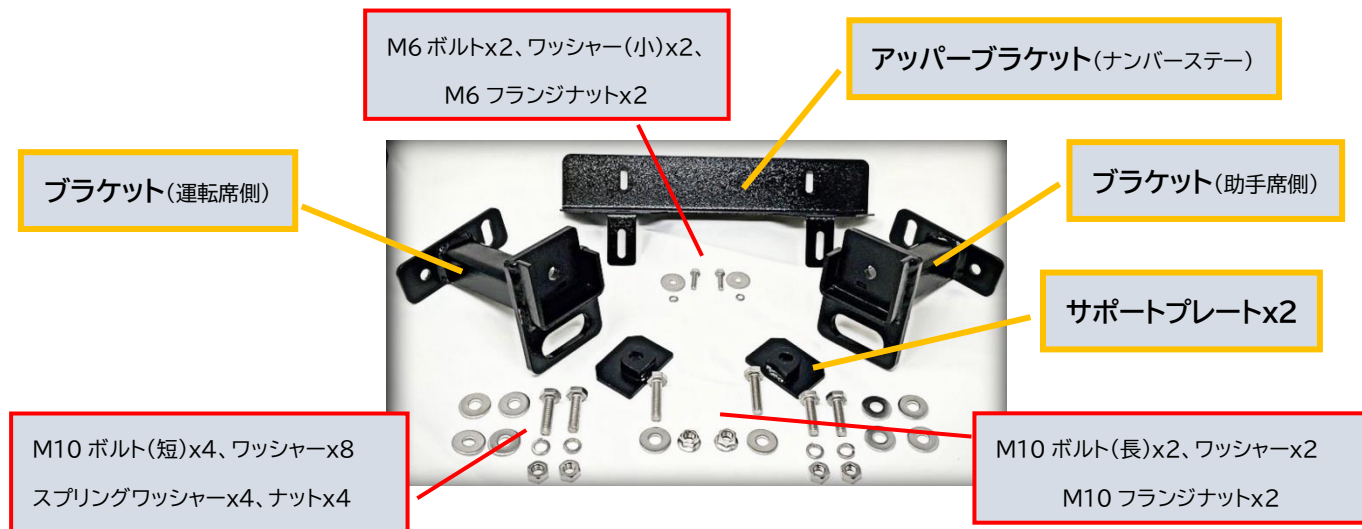
【スキッドプレート】

- ・テクスチャブラック ・シルバー
- ・サンドテクスチャブラック

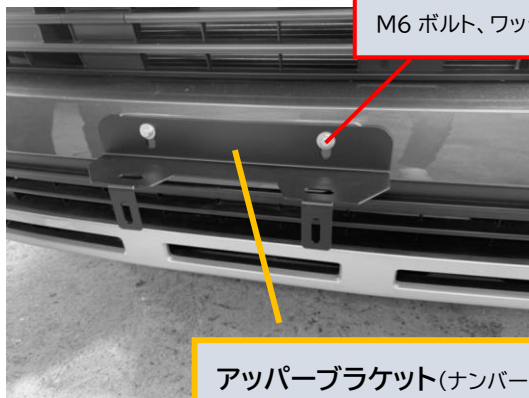
*スキッドプレートは装着済みです。 *アッパーブラケットの M6 ボルト/ワッシャーは組み込んでありますので、取り外して使用します。

取り付けブラケット類【トローイングブラケットセット】

*ボルト/ワッシャー/ナットは組み込んでありますので、取り外して使用します。



① アッパーブラケットの取り付け



フロントのナンバープレートを取り外してから、右図のようにアッパーブラケットを、ナンバープレートのネジ部に付属の **M6 ボルト、ワッシャー(小)** を使用して、**仮締め** で取り付けをします。

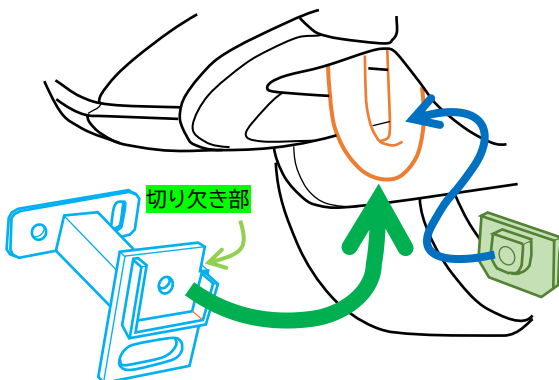
* **M6 フランジナット** はナンバープレートの取り付けに使用します。

② 左右ブラケットの取り付け



フロントのタイダウンフック(牽引フック)にブラケットを取り付けます。

ブラケット(運転席側)の取り付け

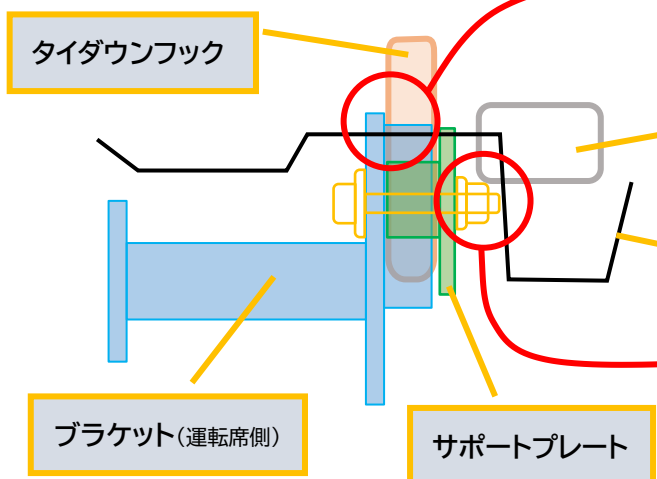


ブラケットの **切り欠き部** が、車両後方側になるようにして、タイダウンフックに被せるようにして取り付けます。

サポートプレートの凸部をタイダウンフックの中に入れて、タイダウンフックを挟み込むように取り付け、ブラケット側から **M10 ボルト(長)、ワッシャー、M10 フランジナット** を使用して **仮締め** で取り付けます。

* 助手席側も同様に作業します。

取り付け時の注意事項



→ ブラケットがアンダーカバーに干渉して、取り付けができない場合はその部分をカットしてから、ブラケットを取り付けてください。

→ サポートプレートとサブフレームの間隔が狭いため、**M10 フランジナット** が挿入しにくいので、注意してください。

③GOQBUTO-RⅢ本体の取り付け

GOQBUTO-RⅢ本体



アッパーブラケット(ナンバーステー)

本体パイプのネジ部に装着済みの **M6 ボルト、ワッシャー(大)**を使用して、GOQBUTO-RⅢ本体をアッパーブラケットの上部にのせて、**仮締め**で取り付けます。

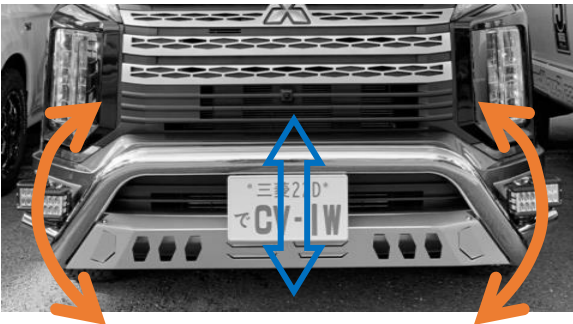
ブラケット(運転席側)と GOQBUTO-RⅢ本体



GOQBUTO-RⅢ本体とブラケット(運転席側)を付属の **M10 ボルト(短)、ワッシャー、ナット**を使用して **仮締め**で取り付けます。

*助手席側も同様に作業します。

④バランスを合わせながら本締めをします



仮締めで取り付けられている各ボルトを全体のバランスを合わせながら本締めしていきます。

ブラケットと本体をボルトで締め時にかかる力の関係で、助手席側が高くなってしまいます。そのことを考えながら本締めを行ってください。

締めすぎないように、ご注意ください。



ボルトを何度も締めたり緩めたりすると、ステンレスボルトの **かじり(焼き付け)**が発生しますので注意してください。

⑤ナンバープレートの取り付け

アッパーブラケットにナンバープレートのボルトと付属の **M6 フランジナット**で取り付けてください。



ナンバープレートは取り付けの位置/角度等の法規制がございます。アッパーブラケットを **加工(曲げ加工など)**しないでください。

- カッター等を使用する場合は、ケガには注意して作業をしてください。
- ボルトで締め付けることにより、塗装面が剥げてしまう場合があります。その場合は補修ペイントなどで、色塗り補修等をしてください。
- 同様に、飛び石や経年劣化などで塗装面が剥がれた場合も、なるべく早めに補修ペイントなどで、色塗り補修等をしてください。